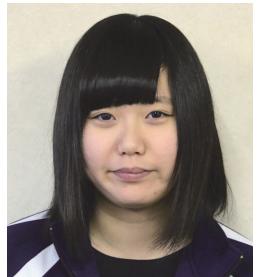


# 第37回全国中学生人権作文コンテスト 滝川地区大会奨励賞受賞作品

全国中学生人権作文コンテストが行われ、札幌法務局滝川支局管内で15校から459編の応募がありました。市内からは2編の作品が滝川地区大会奨励賞を受賞しました。震災・戦争という大きなテーマや、いじめという身近なできごとから感じた中学生の思いを紹介します。

支え合つて  
生きていくために



赤平中央中学校3年  
臼谷 七さん

そんな中、ボランティアに参加する人たちは、本当にすごいなと思いました。

絶対に忘れてはいけない三月

十一日。たくさんの尊い命が流れました日。今ではキレイに工事され、新しい土地がたくさんで

生きています。震災の時に産まれた小さな命も今年で六歳。小学一年生という、大きな節目。産まれた時は、覚えていない

かも知れないけどあの日、あの時を思い出し、みんなで支えあつて生きていくってほしい。

日本は、周りが海なため、地震がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

少し前の日本では、とても苦しい「戦争」があったことは、みなさん知っていますよね。実際に戦争を体験した人の話を聞いたら、当時の状況などを学び思つたことがあります。どんな時でも生きていってほしい。

私は、周囲が海なため、地震がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

私は、周囲で海なため、地震がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

私はまだ実際に「震災」にありましたことはありません。初めて「震災」と言う言葉を聞いたのは、私が小学生の頃でした。三月十一日、東北でおきた大震災、一人でテレビを見ていたら少しゆれを感じました。学校では訓練はしていましたけど、自分の体でゆれを感じたのは初めてでした。すぐ

にニュースに切りかわって、何がおこっているのか全くわからなかつたけど、現地の人はもつと怖くて、無我夢中だったと思います。

被災地に、ボランティア活動がある。ということを私は二年前の熊本地震で知りました。ボランティア活動に参加したいと

見るときつと動けなくなりそうで、足が動かないと思います。

なつて改めて思つたし、今では尊敬しています。声をからしながらさけんでいたあの姿は、今でも決して忘れません。

そして、支え合つて生きること

と知つた今では、いろいろな事にチャレンジしていきたいと

思つています。

少し前の日本では、とても苦しい「戦争」があったことは、み

なさん知っていますよね。實際に戦争を体験した人の話を聞い

たり、当時の状況などを学び思つたことがあります。どんな時でも生きていってほしい。

日本は、周囲で海なため、地震

がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震

がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震

がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震

がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震

がおきやすいし、いつどこでなるかわからない。一人一人がしっかりと学びもつと震災についてたくさん事を知つてほしいし、

日本は、周囲で海なため、地震

なつて改めて思つたし、今では政府からくる紙がとても思い出に残っています。敵が来ている時は、地面に入らなくちゃいけないし、赤ちゃんがいる人は、赤ちゃんが泣いてしまうし、何もかもが大変だったと思うと、今の時代に産まれていて良かつたって本当に心の底から思います。

私は、今回「支え合つて生きていくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きました。支え合つていくには、周りに協力していくべきやいけないし、そもそも、自分のことだけじゃなくしっかり周りを見ることが一番大切だと思います。何事も逃げず、一生懸命取り組み、本当の「支え合つて生きる」という大切さを考えていきたいです。

私は、今回「支え合つて生きて

いくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きま

した。支え合つていくには、周りに協力していくべきやいけないし、そもそも、自分のことだけじゃなくしっかり周りを見ることが一番大切だと思います。何事も逃げず、一生懸命取り組み、本当の「支え合つて生きる」という大切さを考えていきたいです。

私は、今回「支え合つて生きて

いくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きま

した。支え合つていくには、周りに協力していくべきやいけないし、そもそも、自分のことだけじゃなくしっかり周りを見ることが一番大切だと思います。何事も逃げず、一生懸命取り組み、本当の「支え合つて生きる」という大切さを考えていきたいです。

私は、今回「支え合つて生きて

いくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きま

した。支え合つていくには、周りに協力していくべきやいけないし、そもそも、自分のことだけじゃなくしっかり周りを見ることが一番大切だと思います。何事も逃げず、一生懸命取り組み、本当の「支え合つて生きる」という大切さを考えていきたいです。

私は、今回「支え合つて生きて

いくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きま

した。支え合つていくには、周りに協力していくべきやいけないし、そもそも、自分のことだけじゃなくしっかり周りを見ることが一番大切だと思います。何事も逃げず、一生懸命取り組み、本当の「支え合つて生きる」という大切さを考えていきたいです。

私は、今回「支え合つて生きて

いくために」という題名で、震災と戦争、「二つのテーマで書きま



「復興を図ざして  
よろしくお願いします」

## いじめと笑顔



赤平中学校2年  
今井 雪乃さん

あなたは、「いじめ」について考えたことがあるだろうか。私は、いじめとはその場の空気を悪くして、その場にいた人達の笑顔を失くしてしまうものだと思う。私はその場で笑顔を失くしてしまった経験がある。

私が六年生の時である。いつものように学校へ行つた。一つのグループが交換日記をしていて、私はそのグループの交換日記を見てしまつた。すると、日記には自分のことが書いてあつた。私は一瞬で笑顔が消えた。その日から、私に聞こえるような大きな声で私の悪口を言つていた。なぜかは分からなかつた。私は何かしたのだろうか。そんなことを数日間考えていた。そして学校へ行くと、また悪口を言つてゐる。我慢が出来ず母に相談した。すると母は「あんたも悪いところがあつたから言われたんだよ。」と言つた。でも、私は納得がいかなかつた。私が何かしたから交換日記に書く。悪口をグ

ループで言う。それはあっていいのだろうか。私はそう思い、担任の先生に相談した。すると悪口を言つていたグループと私で話す時間てくれた。私はそこで自分が疑問に思つていた事を聞いた。するとグループの一人が答えてくれた。「他の学校の子とうちらの悪口を言つていたから」と言つっていた。私はビックリした。自分が悪気もなく言つてしまつた事でこんなことになつていたとは、私は深く反省した。

つぎの日私は、いつものようにな学校へ行つた。すると悪口を言つていたグループの一人が話しかけてくれて私は自然と笑顔が出た。私はその日考えた。一瞬で消えた笑顔が一人が話しかけてくれたことで自然ともどつてきついた。私はその後から笑顔いっぱいの日が続いていた。

自分で体験したことをふりかえつてみると笑顔の大切さがどうも分かつたのでよかつた。でも私はもう一つ体験したことある。

あなたは、身近な友達が笑顔を失つたときどうしているだろ

うか。私は近くの友達が笑顔を失つたところを見たことがある。

私は、友達三人でおしゃべりをしていた。すると一つのグループが女の子の悪口を言つていた。

それのせいか女の子は笑顔を失つた。その子は、悪口を言われてからあまり笑わなくなつてしまつた。私は、グループの子達と一緒になつて悪口を言つてしまつた。皆で話している時は楽しかつた。でも、その女の子が笑わなくなつてしまつたとき私は楽しくなかつた。なぜだろうか。

話している時は楽しくて、笑顔を失くした子がいると楽しくない。私は不思議に思つた。もしかすると笑顔を失くしてしまうとまわりの空氣もそうなるのかもしない。私は、その日から友達と悪口を言うのはやめようと思った。

このように、「いじめ」とは人の笑顔を失くし、まわりの空気まで悪くしてしまう。そのような悪い事がこの世の中になつていいものだろうか。もし、この世の中に「いじめ」がなければ、人は笑顔でいられるのかもしれない。私は、「いじめ」がなくなつて笑顔が溢れる一日が続くように人の笑顔を失くす「いじめ」をしないように、日々努力したい。



笑顔



鼻先においた右手のこぶしを開きながら前へ出し、軽く頭を下げる。

※今年も手話にチャレンジを「よろしくお願ひします。」



第6回  
「よろしくお願ひします」

手話モデル 小林朋美さん  
(赤平手話の会)